

過去 2 番目に低い就職内定率と過去 2 番目に高い就職希望率

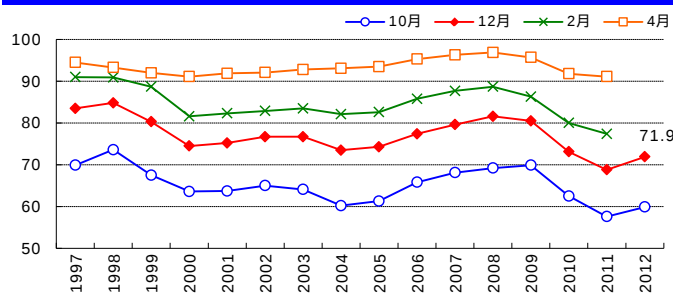
「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」によると、2012 年 3 月大学卒業予定者の 12 月 1 日時点の就職内定率は 71.9%と、2011 年 3 月卒業予定者を対象とした同時期調査である 68.8%に比べ 3.1 ポイント上昇した。また、2012 年 3 月卒業予定者を対象とした前回 10 月 1 日時点調査からの上昇幅は 12.0 ポイントと、2011 年 3 月卒業予定者の上昇幅 11.2 ポイントを上回っている。ただし、2011 年 3 月卒業予定者の内定率は調査開始以来の最低であり、そこから 3.1 ポイント上昇した 2012 年 3 月卒業予定者の内定率も、過去 2 番目に低い水準に過ぎない。

同調査における就職内定率は、全卒業予定者に占める内定者の割合ではなく、就職希望者に占める内定者の割合である。その内定率算出の分母に当たる就職希望者が卒業予定者全体に占める割合、つまり就職希望率は 75.4%と前年から 2.7 ポイント上昇した。上昇幅は、就職内定率の 3.1 ポイントより小幅だが、12 月時点の調査としては 2009 年 3 月卒業予定者と並んで、1998 年 3 月卒業予定者を対象とした 75.5% 以来になる過去 2 番目の高さである。

一方が過去 2 番目に低く、もう一方が過去 2 番目に高いという両極端な結果ではあるが、ともに就職の困難さを反映したものと考えられる。過去 2 番目に低い就職内定率は、言うまでもなく、就職活動の難しさを表している。また高学歴志向（大学院などへの進学）が強まる下での、就職希望率の上昇は、就職の困難さを踏まえての大学生の活動の懸命さを受けたものである可能性が指摘できるだろう。

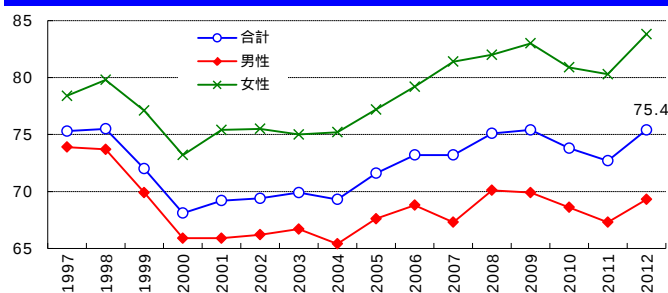
就職希望率に就職内定率を乗じ、卒業予定者全体に対する内定者の割合、つまり一般的に言われる「内定率¹」に近い概念を試算してみると、54.2%と前年同時期の 50.0%から 4.2 ポイント上昇している。これは 3 年ぶりの高い水準だが、60%を超えていた金融危機前に比べれば、大幅に低い水準にとどまる。大学生の就職環境は方向としては改善しているものの、未だ極めて厳しい状況が続いていることが改めて確認できる。

就職(内定)率の推移(%, 各年3月卒業予定者)



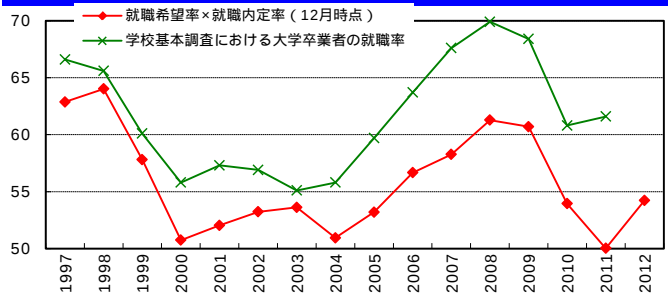
(資料)厚生労働省、文部科学省

就職希望率の推移(%, 12月時点、各年3月卒業生)



(資料)厚生労働省、文部科学省

就職率の推移(%, 各年3月卒業(予定)者)



(資料)厚生労働省、文部科学省

¹ 学校基本調査では、卒業予定者に占める就職者の割合を就職率としている。本稿の試算は、就職率に対応するものと言える。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、伊藤忠経済研究所が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠商事ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。